

第17回 浦添市軍用地跡地利用計画審議委員会（令和4年度第1回）  
会 議 録

日 時：令和4年9月27日（火） 13：30～16：00

場 所：浦添市役所 9階講堂

【議事要旨】

<b>委員委嘱</b>	
—	浦添市長より全ての委員に委嘱状を交付
<b>1 開会の挨拶</b>	
浦添市長	浦添市長
浦添市長	10年前に市長に就任。当時、跡地利用のグランドデザインが出来上がっていた。しかし、キャンプキンザーが返還されるという現実味は無かった。2013年4月に日米合同計画が発表されて、そこから急速に現実味が伴い跡地を考えることになった。現在は、返還されないと思っている人は少ない。ここにお集まりのみなさまに審議頂く内容が、将来のキャンプキンザーの跡地のまちをつくることになる。本審議会は、結果ありきの会議ではなく、真っ白なキャンパスの上に、みなさまの考える跡地を描いて頂きたいものである。
<b>2 会長の選任</b>	
事務局	会長について、立候補や推薦があれば教えて頂きたい。
委員一同	(特になし)
事務局	特になしなのであれば、事務局より会長にQ委員を推薦する。
委員一同	(異議なし)
事務局	会長はQ委員を選任する。 続いて、副会長についてはB委員を推薦する。
委員一同	(異議なし)
事務局	副会長はB委員を選任する。
<b>3 審議委員会への諮問</b>	
—	浦添市長より会長に諮問
<b>4 議事録署名人の選定</b>	
会長	議事録署名人は、C委員とD委員にお願いしたい。
委員一同	(異議なし)
<b>5 これまでの経緯と現状</b>	
事務局	(資料説明)
会長	質問があればお願いします。 まず、私から発言させて頂く。 跡地利用の基本計画を早めにつくることは非常に大事。過去に他自治体では基本計画が間に合わないという自治体もあった。それによって返還が遅れるということもあった。浦添市ではそのようなことが無いように本地区を有効に活用したいという思いがあると認識している。そのため、跡地利用計画は非常に重要な計画となってくる。 本審議会には経済界からも多くの方々に審議委員としてご参加して頂いている。商業、電気通信等専門の方々、これからの開発をどうするかについて、十分な人材が揃っていると認識している。 基地跡地のまちづくりについては、80年代に地権者に不利益を与えない商業型の開発、90年代にハンビー飛行場、2000年代になると新都心や商業地等としての活用が出てきた。 こうした跡地においては土地の価値が上がったと言われるところもあるが、今後のまちづくりにおいて環境や福祉等についても住みやすいまちになっているかと

	<p>いうところもとても大事になってくると考えている。</p> <p>アメリカの企業では、環境に配慮していない企業とは取引をしないという話も出てきている。環境という視点がとても大事。</p>
E委員	<p>資料の跡地利用に求められる主な要素について、沖縄県の計画を紹介しているが、リゾート沖縄マスタープランを作っており、浦添西海岸をリゾート開発のメインコアにするという計画があったと思う。それを上位関連計画の1つに入れて、今回の跡地利用計画に盛り込んではいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ご提案を頂いたと理解し、リゾート沖縄マスタープランを確認し検討していきたい。</p> <p>ハワイ、ゴールドコースト、沖縄の3つを並べて、リゾートの開発を進めていくという内容になっている。</p> <p>そのような気概を持って跡地利用計画を進めていきたい。</p>
会長	<p>各委員から、自己紹介を兼ねて跡地利用に対するお考え等を頂きたい。</p> <p>まずは、副会長のB委員からお願いします。</p>
B委員	<p>チームまきほ21は、当初7名のメンバーから勉強会を始め、現在16名で構成されている。毎年、県内外から講師をお招きして、勉強会を開催している。</p> <p>浦添市長にチームまきほ21の提言として、自然環境の活用、歴史・文化の活用、土地活用、地権者の生活利便性の確保という4つの観点から提言をさせて頂いている。</p> <p>こうした提言の内容も反映されるよう、本審議委員会で意見をしていきたいと考えている。</p>
F委員	<p>本地区のまちづくりに貢献したいと考えている。</p> <p>これまでも那覇の軍用地が返還されて都市化されてきたが、正直な感想として、沖縄らしさがどんどん失われている。有効活用を図る一方、沖縄らしさを考えていきたい。沖縄らしさがどういうものをみなさまと話し合っていきたい。</p>
G委員	<p>沖縄県民のインターネット利用者は令和3年度末で79%。全国平均よりは少し低い状況となっているが、まちづくりにおいてはICTは必要不可欠。3年後には大阪万博も控えているが、技術革新のポイントをしっかりと抑えて意見していきたい。</p>
E委員	<p>アメリカの基地跡地利用計画を調査した経験がある。</p> <p>ハワイでは、火山島であるが、人工的にビーチを開発した。</p> <p>南大東島では、ハワイと同じやり方で漁港を作っている。</p> <p>こうした事例も参考に大胆な計画にしていきたい。</p>
H委員	<p>SDGsも踏まえ、エネルギー事業者としてライフラインを中心に、人々の暮らしがよくなることを考えていきたい。</p>
I委員	<p>モビリティ関係で委員に選任されたと認識している。</p> <p>会社としても自動運転や田園都市構想に取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>沖縄トヨタグループだけではなく、トヨタグループ全体の知見をこちらにお持ちできればと考えている。</p>
J委員	<p>百貨店、スーパー、コンビニ、輸入業、エンタメ等を行っている。</p> <p>どういったところに人が集まるか、経験上わかるところもある。</p> <p>行きたい場所、働きたい場所、住みたい場所をどうつくっていけば良いか、意見を出していきたいと考えている。</p>
K委員	<p>環境デザインの仕事をしている。首里城公園の復元に15年関わっている。アワセ通信基地内の70haが県営の総合公園になったが、この公園の都市計画決定段階から、20年近く関わってきた。最近は西普天間地区の中の11haくらいの公園のプロジェクトに関わっている。</p> <p>基地の中には色々な資源があり、それをどう活かしていけるかが課題である。土地区画整理事業によって、地域資源がなくなってしまうこともある。</p> <p>本地区では、沖縄、浦添市らしさをどうつくっていくかというところと関わってくると思う。</p> <p>これまで浦添市では、キンザーによって海との繋がりが絶たれてしまっていた。今回、キンザーの開発によって海につながることになるが、軍港や西海岸の埋立</p>

	<p>ができてしまう。 自然環境を残すということはとても大事な視点である。こうしたことについても意見していきたい。</p>
L委員	<p>県では今年5月に新・沖縄21世紀ビジョン基本計画を策定している。その中でも、本地区について、沖縄県としても市と連携しながら開発を進めていくとしている。 また、跡地利用を通じた新しいまちづくりでは緑地環境の保全創出、魅力ある景観の創出、沖縄らしい景観を作り出すという内容を記載している。 こういった観点を念頭に置きながら跡地利用計画づくりができればよいと考えている。</p>
M委員	<p>地権者の合意形成に向けた市町村支援事業に取り組んでいる。 そうした事業を通じて、まきほ21の活動支援も行っている。 引き続き、支援してまいりたい。</p>
D委員	<p>城間で生まれ育った。 仕事はJAで畜産関係に関わってきた。 地元でもキャンプキンザーに対して関心が高い。 7自治会の中から、1名審議委員として選任ということで、今回任命された。</p>
N委員	<p>チームまきほ21ができて10年経ったという話があったが、この10年で変化があった。 発足当時は東日本大震災の後で防災意識の高まりがあった。その後、2019年にかけて観光需要の高まりがあった。大型クルーズを呼ぼうという話もあった。その後、コロナで状況が一変した。最近、SDGsの話がある。 スマートイノベーションシティという概念は10年前にはなかったこと。 ここで議論していることがまちびらきの時には陳腐化しないように、ぶれない土台をつくるということが大事。 ぶれない内容は、人の活動が重要になると思う。</p>
C委員	<p>地権者の代表として、民有地が9割弱なので、地主会の役割が大きい。 この審議会の中で、地主会の立場から意見を出していきたい。</p>
会長	<p>先ほどK委員から自然海岸の埋立について意見していきたいという意見があった。 私個人としても、埋立、軍事施設について賛成する立場ではない。しかしながら、「所与の条件」という表現があったが、埋立の議論とは別にしっかりと牧港補給地区の跡地利用を検討していかなければ、跡地利用が遅れてしまうことに繋がりがかねない。まずは陸側から整備を進め、海側へも良い影響を与えることを期待する。 L委員からも時間とともに価値創造型のまちづくりというご意見も頂いた。沖縄の潜在力を活かしてどうしていくか。 N委員のご発言にあった陳腐化しない跡地利用計画づくりという視点が非常に大事。跡地利用計画が何度も改定されることもある。確かに、事前に調査できない等条件が十分揃わないということもあるが、そうしたことも踏まえて陳腐化しない考え方は何かというところを考える必要がある。</p>
<b>6 閉会の挨拶</b>	<b>浦添市西部開発局長</b>
西部開発局長	<p>港湾施設の中には、物流施設や軍港移設等の計画もある。そうしたことを前提として跡地利用計画を進めていく必要がある。 今回の跡地利用計画は、本地区の将来を決めるだけでなく、沖縄県の他地区にも大きく影響を与えるものになると考えている。 訪れた人が驚愕するようなまちづくりを行っていきたい。</p>